

## 60号記念院長インタビュー

ふれあい新聞が今回60号を迎え発刊10周年となりました。それにあたり院長にインタビューをいたしました。

Q. ふれあい新聞を始めたいきっかけは？

A. 患者様にとって身近な存在でありたい。曾山医院のことをもっと知りたい、いただきたいと思い始めました。

Q. 今後のふれあい新聞でやっていきたいことは？

A. これまで在宅療養されている患者様から題字や原稿をいただきました。「読者の声」の欄を作っては？



## 漢方入門 其の三十六

「胃痛、胸やけと漢方」



検査で特に異常が見つからないにもかかわらず「胃痛」や「胸やけ」がある場合は、原因やほかの症状などに応じて、漢方薬が使われます。

●胸やけの場合：みぞおちのつかえ感や吐き気、食欲不振、下痢などを伴う場合は半夏瀉心湯（ハンゲシャシントウ）、胃に水がたまってチャブチャブする感じやゲップを伴う場合は茯苓飲合半夏厚朴湯（ブクリョウインゴウハンゲコウボクトウ）、胃の運動機能を改善して、胃酸の逆流を防ぐ六君子湯（リックンシトウ）などが有効です。●吐き気の場合：立ちくらみを伴う場合や乗り物酔い、月経前の吐き気がある場合は当帰芍薬散（トウキシャクヤクサン）や五苓散（ゴレイサン）、片頭痛を伴う場合は呉茱萸湯（ゴシュユトウ）などが用いられます。●胃痛の場合：ストレスが原因の場合は柴胡桂枝湯（サイコケイシトウ）や四逆散（シギヤクサン）、比較的体力がありのぼせやすい場合は黄連解毒湯（オウレンゲドクトウ）、やせていて胃酸の分泌が多い場合は安中散（アンチュウサン）冷えて腹痛がある場合は六君子湯（リックンシトウ）が適応になります。その他、胸やけや胃痛などが続くときには、薬だけに頼らず、日常生活の見直しも必要です。暴飲暴食を控えて、睡眠を十分にとり、疲れている胃腸に無理な負担をかけないようにしましょう。

では、少しプライベートな質問も!!

Q. 子供の時の夢は？

A. 小学3年生のころは漫画家を志していました。

Q. なぜ医師を志したのですか？

A. 中高生の頃祖母が阪大病院で治療を受けるのに何回か自分も同行することがあり、この道に進みたいと思うようになりました。

ありがとうございました。

この続きは次号ですがどんな話が出てきますでしょうか。楽しみに!



## スタッフ紹介

Q) 引き続きスタッフ紹介をさせていただきます。1月から医療事務に再勤務されている福井真巳さんです。

A) 以前は荷出で勤務していましたが、結婚し、福井となりました。宜しくお願い致します。

Q) 新婚旅行はいかがでしたか？

A) エジプトに4泊6日で行って来ましたが、世界遺産の数々に圧倒されました。1番は何と言ってもピラミッドです。テレビで観ていたように急斜面を下りて奥の部屋まで進んで行きました。湿度も結構高かったので、ミイラの保存状態の良さが不思議でした。製造方法がわかった現代でも当時のようには作れないそうです。あと、印象的なのはエジプト考古学博物館の“ツタンカーメンの黄金のマスク”とお手洗いです。お手洗いは、紙が溶けないので流すことはできません。最初の流し方がわからず蛇口をひねると思いもよらぬ所から水がふき出し、服がぬれました。日本でいうウォシュレットだったようです(笑)

Q) 最後に今後の抱負をお願いします。

A) 仕事と家庭を両立させ、元気に、明るく勤務していきたいです。

— ありがとうございました。



ふれあい曾山医院

淡路市志筑1391-9 電話 62-5566

発行人:曾山 信彦

2009年5月号(第60号)

編集委員会  
岡崎 博子 谷岡 尚子  
福井 真巳 赤松 陽子  
西岡 真博子 棟近 成氏